漁業社会に飛び込んで
－全く予想もしていなかった漁師への道－

鎌倉漁業協同組合
岩　橋　　桃　子

１．地域の概要

私が漁業を営む、鎌倉市は三浦半島の西側の付け根に位置し、前面には相模湾が広がっています。鎌倉は鶴岡八幡宮、鎌倉大仏、サーフィン等のマリンスポーツが盛んな由比ガ浜など観光地として良く知られているところです。しかし、西側の七里ガ浜と稲村ガ崎周辺、東側の鎌倉時代に築かれたと言われる港「和賀江島」周辺には磯根があり、アワビ、サザエなど磯根資源が豊かな海域となっていることがあまり知られていません（図１）。

図１　鎌倉市の位置図

鶴岡八幡宮

鎌倉大仏（高徳院）

由比ヶ浜海岸

２．漁業の概況

私が所属する鎌倉漁業協同組合は、組合員数６０名、所属漁船約６０隻で構成されています。漁業種類は刺網、小型定置網、シラス船びき網、タコ篭、みづき、ワカメ養殖等多種の漁業が営まれており、漁業者は複数の漁業種類を組み合わせて営んでいます。私も刺網、みずきを専業として、イセエビ、サザエ、アワビ等を対象に操業しているほか、シラス船びき網漁にも乗船し、漁を手伝っています。

タコ篭漁

みづき漁

シラス船ひき網漁

3．研究・実践活動取組課題選定の動機（なぜ、漁業の道へ進んだのか）

6 年前の 2002 年に知人の紹介で地元漁師のシラス直売店で働くようになったことがきっかけでした。当時の私はシラスの加工、販売の仕事をしており、この時点では漁業に多少興味があったものの、まさか自分が漁師になるとは思ってもいませんでした。しかし、4 年前の 2004 年に今まで経験したことのないシラスの大不漁に見舞われ、店での仕事が全くなくなってしまいました。シラス直売店の親方に漁業に少し興味があるという話をしたところ、船上での仕事を手伝わせてもらえることになりました。親方はシラス船びき網以外にもいろいろな漁を営んでいました。シラスのいなかったこの年、カツオの一本つりにも行きましたし、タコ篭、刺網、みづきの手伝いもしました。いろいろな漁業体験を親方にさせてもらい、カツオ、カマス、ボラ、イセエビなど数え切れない種類の魚を見させてもらいました。鎌倉の海にはこんなに多くの種類の魚がいるということを知り感動もしました。

その中で特に私が感動したのがみづきでした。生まれて初めてめがね越しに海の底の世界を見たとき、私はその光景に感動し、くぎづけになりました。今、自分が見ている景色こそが、鎌倉の海の真の姿です。場所によって海底の質も違います。生えている海藻も、地形も、魚もリアルに生き生きとした姿が自分の目に飛び込んできました。それは今まで見たことのない水族館にいるようでした。私がめがねで見ている間、親方は隣でサザエを突いています。完全に保護色で私には何だかわからないうちに手元までサザエがあがってきます。「あれがアワビだ」と言われても一体海底のどこにそんなものがあるのか自分には全くわかりませんでした。それが二度、三度と船に乗るうちにサザエもアワビも自分の目で見つけられるようになりました。自分で見つけることが楽しくなり、特にアワビを探すことがまるで宝探しのようで、本当に夢中になっていました。そのうち親方よりも先にアワビを見つけられるようになりました。それから私がアワビを見つけて、親方が獲るという漁が続きました。このような漁のパターンが増えてきたある日、親方が私に言いました。「自分でやってみたいか」と。私は「やってみたい」と即答しました。私は毎日船に乗り、いろいろな漁業を体験しながら、「自分でやってみたい」と自然に思うようになっていました。

4．研究・実践活動状況及び成果（周囲の反応・私の気持ち、漁業者としての自立）

（1）准組合員への推薦、そして正組合員へ

いろいろな漁業体験をしてきたわけですが、楽しいことばかりではありませんでした。鎌倉は漁港がなく、浜から波が打ち寄せる海へ直接船を出さなければなりません。海はいつも穏やかではりません。風があって波が高いとかなり危険です。それでも漁業をやりたいという気持ちを強く持ち続けていました。そのような気持ちを親方にもわかってもらい、2 年前の 2006 年に親方から私を准組合員に推薦していただき、漁協の皆さんにも承認していただきました。准組合員になってからも厳しかったですが、自分なりに一所懸命頑張りました。そして今年から正組合員として認めていただきました。漁業へのひたむきな気持ちを持ち続けたことが認められたということで、辛いことがあってもこのような気持ちを持ち続けることが重要だと思いました。女性漁業者として、しっかりした気持ちをもって、生計を立てていかなければいけないという気持ちが強くなりました。

（2）周囲の反応・私自身の気持ち

漁業は男の職場という印象が一般的な考えだと思います。私も漁業に就業する前はそう思っていましたが、今はいろいろな職場に女性は進出しています。私自身、漁業は好きなのですが、複雑な思いもあります。実は、私が漁師をやっていることについて周囲の反応は賛否両論です。本来 30 歳にもなる女性であるならば結婚して子供の一人や二人育てていてもいいはずです。実は私自身も女性とはそうあるべきではないかと思っているくらいです。私自身は好きなことばかりやって自分の為だけに時間を使って、全く自分勝手やりたい放題の贅沢な生活を送っていると思います。時折「これでよいのだろうか」という疑問が頭をよぎります。そして、子育てどころか殺生をしているということを考えた時、ものすごく恐ろしい気持ちになったこともあります。それでも漁業を通して、今まで味わったことのない充実した今を生きているということも事実なのです。今は漁業を頑張りたい。そしてこれからの人生も考えたいという気持ちです。

（3）漁業者としての自立

2002 年にアルバイトを始めたときは、年間収入が 33 万円でした。2003 年は 120 万円まで増えましたが、2004 年にはシラスの大不漁もあり 84 万円に減ってしまいました。この頃から親方の船の手伝いをするようになりました。2006 年は准組合員になり、次年度へ向けて漁の準備をするとともに親方の漁の手伝いで 500 万円まで収入が増えてきました。2007 年には自身で船を購入し、みづき漁、刺網漁を始めました。収入が 540 万円になりましたが、自身の漁による収入は 170 万円で全体の 31.5%と親方の手伝いによる収入が半分以上を占めていて、自立したとはまだ言えませんでした。ただ、親方からはシラス船びき網船の船頭代理としての操業を認めてもらい、時々舵も持つようになりました。責任も大きくなりますが、私自身も充実してきました。

2008 年から正組合員になりました。自立した経営を考えていかなければなりません。新たに船を建造して 2 隻体制とし、刺網漁を充実させると同時に新たにタコ篭漁も始めました。12 月前半までですが、収入は 580 万円に上がり、自身の漁による収入も 340 万円と全体の 58.6%にまで伸びてきました。

2007 年は収入が 540 万円あり、経費などを引くと 370 万円です。2008 年も 12 月前半までですが、収入が 580 万円ありましたが、経費などを引くと 240 万円でした。漁家経営は、とってきた魚をなるべく高いお金にしていくことと、いかに少ない経費ですませるかというところがあります。今は新船も建造し、経費がかかってしまいますが、他にも燃料代が高騰するなど対応を考えていく必要があります。ただ、水揚を多くするのではなく、資源を大切にしつつ、経費を削減し、なるべく高く魚介類を売っていく努力も必要だと感じています。

シラス直売所に入ったころと比べると、今年の年間収入は 17 倍以上に上昇しています。収入内訳も親方のシラス船に乗りつついろいろな技術を磨いているので、親方頼りの体質はまだありますが、2008 年度の収入の内訳の半分以上が自分の漁で稼いだものになってきました。自立した漁家経営というのは常に漁獲物を高い価格で売るということと、経費節減との戦いで、私も毎日が勉強の世界です（図２）。

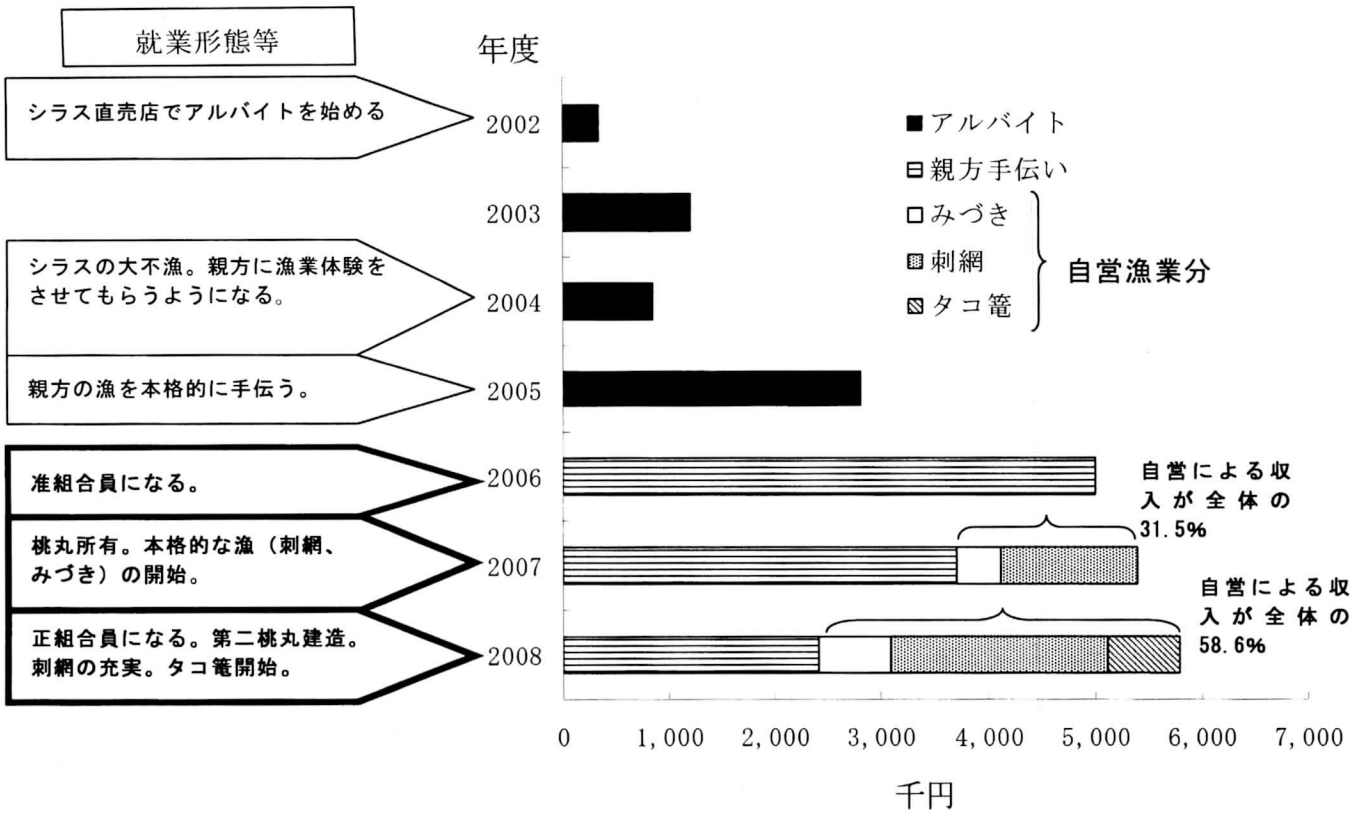


図２　年度別年間収入推移と就業形態等

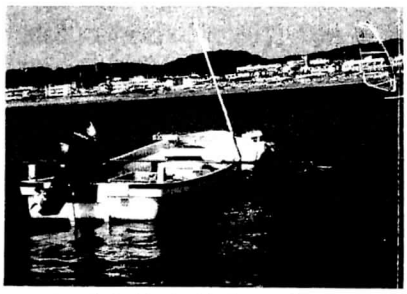
５．波及効果

今まであまり意識はしてこなかったのですが、私が女性漁業者ということや若い漁業者も少しずつですが、増えてきているということで、浜は活気づいてきているように思います。私自身はマイペースですが、鎌倉の浜がもっと活性化されて、地元の魚介類がもっと知られるようになればよいと思います。

また、漁業研究会メンバーとして参加している朝市も来場者がだんだん多くなってきました。水揚量の関係から販売できる量が限られていますが、少なくても地元の人たちには朝市が認知されてきていて、地元で水揚されている魚介類が理解されてきているように思います。

漁業者とは何も繋がりのないところから漁協正組合員にまでなったという 2002 年から 2008 年までの時間は、私にとって貴重な財産となっています。小さいことをいえばいろいろな苦労がありましたが、漁業に対するひたむきな気持ちを漁村の人たちに理解してもらうこと、先輩漁業者からの話には耳を傾けること、その漁村のよき師匠を見つけて教えを受けることなどこうした私自身の生き方がこれから漁業をやりたい或いはやってみたいという人たちへひとつのヒントになればよいと思っています。

鎌倉朝市の状況



みづき漁と漁船　桃丸

みづきで漁獲したアワビ

シラス船の舵をもつ

シラス船での親方と仲間

刺網で漁獲した鎌倉エビ

一本釣りで漁獲したカツオ

サバ釣り

6．今後の課題や計画と問題点

若い漁業者を増やしたい気持ちがあります。若い人が増えると浜は活気づきます。しかし、漁業者になりたいと言ってもいきなり組合員になれるものではありません。その漁村に溶け込んで、漁業に対するひたむきな気持ちを漁村の人たちにぶつけていく必要があります。一人前の漁業者になるまでには、技術を習得する必要もあります。私の場合は親方に習って、腕を磨きました。やはり時間が必要だと感じました。そして、何より重要なのは、漁業が好きであるということです。しかし、保守的な考えの人もいます。わかってもらえなくても漁村の中でいろいろな人たちと話したりすることも非常に重要です。そして自分自身の気持ちを話すことです。そうしたことから段々と漁村の人たちの考えを理解できるようになります。私が経験、体験してきた、いろいろことを機会を捉えて地元だけに限らずいろいろなところで話すことができればと思います。

また、鎌倉には地域的な課題もあります。鎌倉漁協には漁港がないことから船の大きさや水揚量に限界があります。特に漁船の海へのエントリーは海岸から直接行うので、風が強いと大変です。今は台車に乗せて船を出し入れするなど工夫をしています。今後は、仲間との連携など女性ならではハンデを少なくするよういっそうの工夫が必要であると感じています。

さらに漁家経営の課題もあります。昨年は燃料費の急騰などもあり生計を維持させていくことにも苦労がたえませんでした。獲ってきたものをなるべく高いお金に換えていくことを考えなければいけません。アワビやイセエビなど単価の高いものを水揚げていくというのもひとつの考えですが、それだけでは今後を乗り切るためには足りないと考えています。漁家経営の手法はいろいろなところから学びとる必要があると感じます。その中でもシラス漁を営んでいる親方の経営手法には見習うところがあります。自分で獲ってきたものを自分で加工し、自分で販売しているのです。自分でとったものを自分で販売することで、自分で価格を決められるという利点があります。親方たちはこの漁獲、加工、販売までを作り上げるまでに大変苦労したと聞いています。女性ならではの加工や売り方などを

考えていく必要も感じます。漁業研究会の一員として参加している「さかなまつり（朝市）」にも積極的に参加し、地元の人たちにもっと地元で水揚されているものを知ってもらい、食べてもらいたいと思っています。そうしたことが漁家経営向上につながります。そして、いろいろな分野の人とのかかわりから売り方も色々考えられるのではないかと思っています。特に異業種交流などは重要だと考えています。現在は、いろいろな壁にぶつかっていますが、いろいろな課題を考えることを私自身楽しんでいます。

毎日、漁師という大好きな仕事をしています。女性の立場で考えるとこれからこのままでいいのだろうかと考えてしまうこともあります。しかし、今まで自分が体験してきたこと、今やっていること、これから先のこと、どれをとっても私にとって素晴らしい経験で様々な困難を差し引いて考えても、漁師の仕事は私にとって最高のまたやめられないものなのです。

漁港がないので海岸から海へ漁船を出します。台車を利用して工夫しています。

みづき漁船「桃丸」

新造した第二桃丸です。刺網のほかタコ篭漁も行います。